

平成 28 年度 双葉町復興町民委員会
第 2 回 人の復興部会 報告書 (0908)

- 日時 平成 28 年 9 月 1 日 (木) 13 時 00 分から 16 時 30 分
- 場所 双葉町役場いわき事務所 2 階大会議室
- 参加者 別紙座席表のとおり
- テーマ
 - ①「復興へ向けた具体的な取組みについて考えよう」
 - A「生活の再建」
 - B「双葉町外拠点（勿来）の活用」
 - C「双葉町を担う次世代の育成」と「震災・事故の教訓と復興の過程の記録・発信・伝承」
 - ②「自由意見の発表」

- テーマ①で出た意見
ワールドカフェ方式で、参加者は 3 つのテーブルを 3 ラウンド巡回して、多くの参加者と交流しながら、意見を出し合った。

◇テーブル A 「生活の再建」

(メンバー：岡村隆夫、山根光保子、羽山君子、高野光夫)

発表の要点

- 生活再建についてこれまでも随分議論してきた。
- 地域ですでに生活再建している人もいるので、今後は、いまだに地域のコミュニティに入れない人、交流に入れない人向けの支援が中心となる。
- 避難先での近所付き合いや、地元の人たちの交流の輪にどうやって入っていくかが、これからのテーマになる。
- 今までにできていない支援をする。支援は、双葉町支援員・民生員が行うことが重要である。
- 避難先でコミュニティに加わるためには、地域でのあいさつ、清掃活動への参加、スポーツを通じて交流できる関係を構築する、などがある。
- それもできない人は、地域の中に世話人がいるので、そういう人に自分からアプローチするか、サポートしてもらうことが必要だ。

《地域の人とのコミュニティづくり》

- 避難先でのコミュニティ
- 地域性があるのとけこめない
- お年寄りはいまだに地域にとけこめない
- いつまで借り上げ？いつまでお金もらっているの？

- 地域の交流会に参加すべし！
- 地元へのなじみ
- その気持ちをどう持たせるか

《誘い合って、ご近所付き合い》

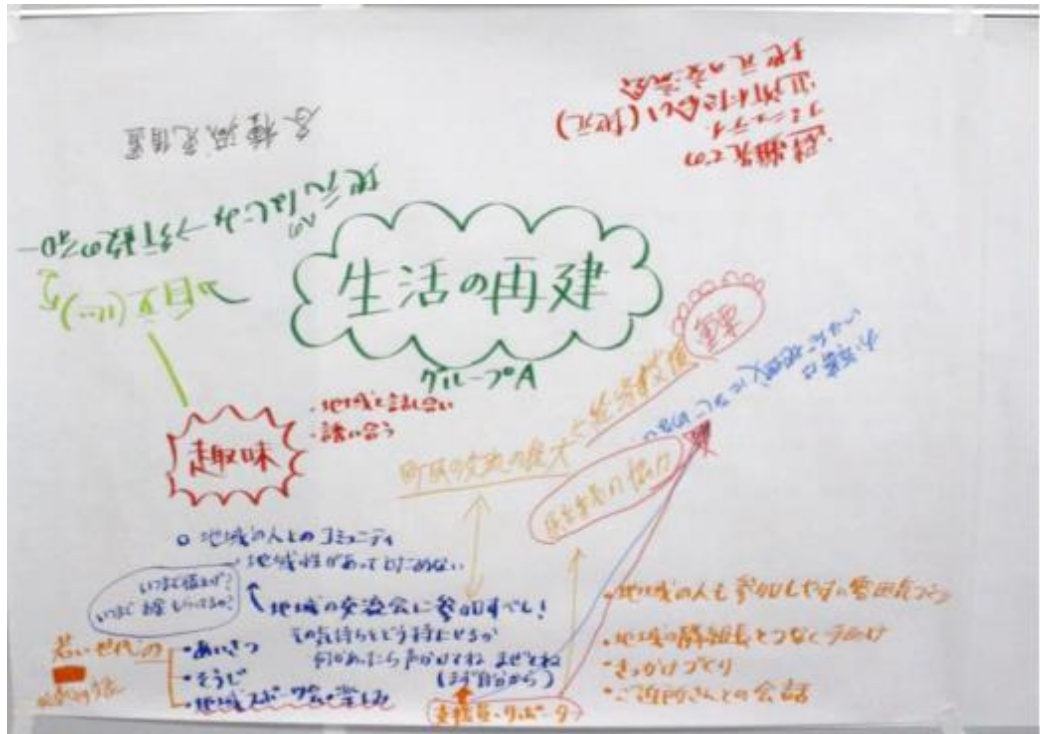
- 誘い合い、何かあったら声をかけてね、まぜてね（まず自分から）
- 地域と話し合い
- 近所付き合い
- あいさつ
- そうじ
- 地元の交流会
- 地域スポーツ会の楽しみ

《町民の交流を支援する方法》

- 地域の人でも参加しやすい雰囲気づくり
- 地域の隣組長とつなぐ手助け
- きっかけづくり
- ご近所さんとの会話
- 民生委員の協力
- 支援員・サポーター
- 行政のフォロー

《その他》

- 趣味
- 自立心
- 各種減免措置



◇テーブルB「双葉町外拠点の活用」

(メンバー：山本真理子、今泉春雄、高野泉、大橋庸一)

発表の要点

- 町外拠点は数か所必要だ。1箇所だけだと、避難先が遠方なので町民が集まるのが難しい。
- 双葉町民だけでなく、別の地域の人々も町外拠点を活用できることが、絆を深めることにつながるので、重要だ。
- 町外拠点に県内外から町民が来るので、移動手段が必要だ。町民の足の確保としてタクシー・バスの活用がある。
- 町外拠点を作ったとしても、その中に役場がないのはどうなのか。
- イベントの活用が人の復興のためには重要だ。ダルマ祭り、夏祭り、盆踊りがある。盆踊りは夜のイベントなので、宿泊施設がどうしても必要だ。宿泊施設を町外拠点に作るか、湯本温泉など使っていない場所・旅館などの利用でもよい。
- 盆踊りの太鼓を打つことのできる場所がほしい。
- 町外拠点で催しものをしたいと希望する町民が全国にたくさんいる。

《町外拠点と役所を結ぶ》

- 拠点と役所が離れていて、それでよいか
- 町外拠点 NO.2 をつくり、数か所をつなぐ

《利用者》

- 自立した者にとってはあまりなじまない
- 町民であるなしにかかわらず、他地域からの人も利用できるエリアに

《活動》

- サークル活動（手芸、料理）
- 後方で発信

《イベントの活用》

- ダルマ市
- 盆踊り
- 運動会
- 文化祭

《宿泊場所》

- 町営宿泊施設が必要
- 温泉、食事付

- 泊まれる場所
- 宿泊プラン

《移動手段》

- 町タクシー
- 町バス



◇テーブルC「双葉町を担う次世代の育成」と「震災・事故の教訓と復興の過程の記録・発信・伝承」

(メンバー：舘林孝男、新工澄子、玉野憲一)

発表の要点

- 次世代の育成については、今のところ子どもが少ないので、イベントに子どもを参加させて大人と共有させる。いろいろな場所で双葉町のことを伝えていきたいが、若者と親がイベントに来ないことが問題だ。
- 各種イベントがあるが、親子で参加すれば、教えなくてもこういう双葉町だったのだということは、伝わるのではないか。
- 伝承については、スポーツを通じて子供たちに伝える。盆踊り・敬老会・ダルマ市を伝える。
- 子どもに対して双葉町について強制的に色々なことを教えることは、重荷になる。自然と双葉町で生まれたことを伝えると同時に、重荷にならないようにする。
- オリンピックへも双葉町出身の選手がでている。子どもとの交流が必要だ。
- 子どもを対象とした海外派遣や海外の勉強をするのがよいのではないか。世界に羽ばたく人材を育てることができる。
- 双葉町を忘れないということは大切だ。双葉町で生まれて震災に遭った。いわき・白河に住んでいても双葉町の住所がわからない子供もいる。親が双葉町のことを伝えるべきだ。そうでなければ、子どもの育成につながらない。
- 双葉町を担う次世代の育成といっても、町民の多くが住んでいるのはいわき市だ。しかし、生徒は数えるほどしかいない。次世代を担うには足りない。早く双葉町に帰還しないといけない。30年後の復帰ではなく、来年や再来年の帰還を考えてほしい。一刻も早く帰らないと、担う人材が出てこない。
- 白河の自治会で10月に小千谷市に行き、防災設備を見学し交流を行う。体験型の防災設備を作ることが必要ではないか。

《世界で育てる》

- どこにいても双葉町民
- 住む場所は違うが、世界に羽ばたく人材の出現
- 児童の海外派遣は？

《まずは親の帰還から》

- 早急に町を復興して、町民を帰還させねば

- 若者及び親たちがイベントに来ない
- 親から子どもたちに、双葉町の良さを伝えるイベントに誘う
- 子どもが少ない
- 親たちと子どもを町にどう呼び寄せるか
- 双葉町を忘れないように親が伝える

《子どもたちの力を信じる》

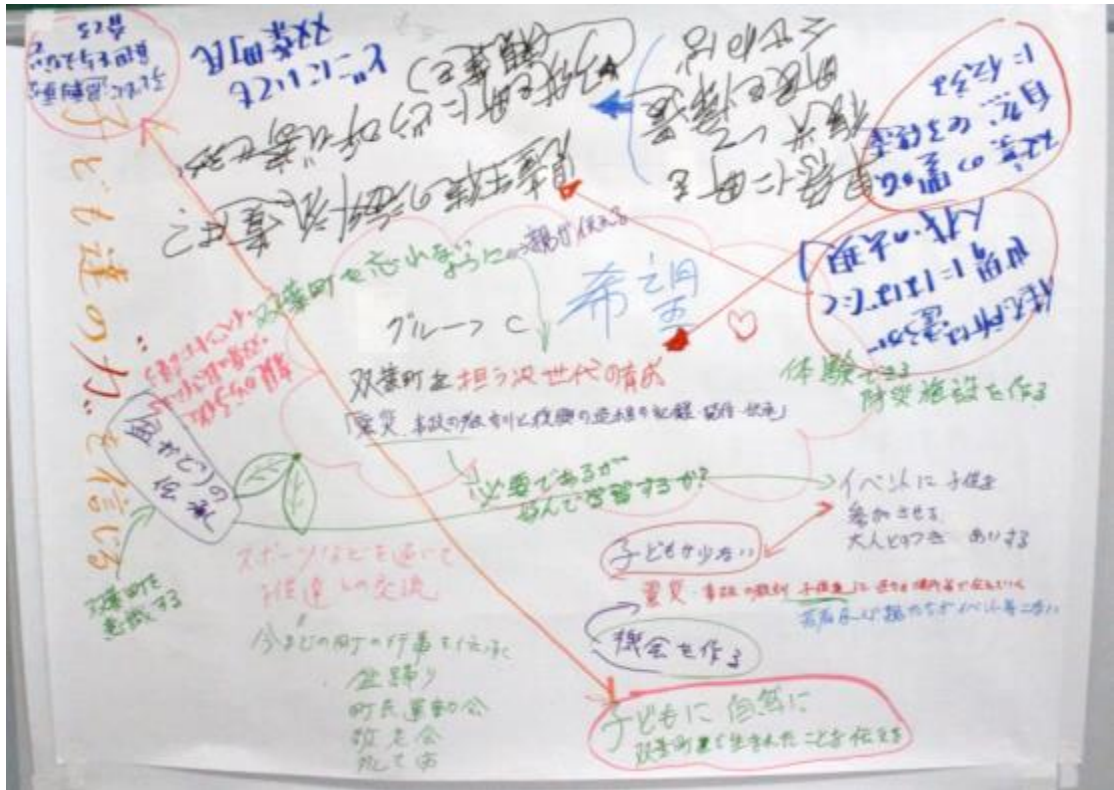
- 必要であるが好んで学習するか
- 子どもに過剰な負担を与えないで育てる
- 双葉町の豊かな自然を子どもたちに伝える
- 子どもたちの力を信じる

《イベントで育てる》

- イベントに子どもを参加させて、大人とのつきあいをさせる
- スポーツなどを通じて子供たちとの交流
- 盆踊りの伝承で双葉町を意識する
- 町民運動会
- 敬老会
- ダルマ市

《震災・事故の教訓と復興の過程の記録・発信・伝承》

- 震災・事故の教訓を子どもたちにいろいろな場所で伝えていく機会をつくる



■ テーマ②で出た意見

テーマ①のAからCの議論を終えたのち、自由意見をそれぞれのグループで出して整理した。

◇テーブルA

《自由討議の要点》

- 町外拠点の具体案を出してほしい。町外拠点に来たい人はたくさんいるが、具体的な話・施設がわからない。わかりやすい絵がほしい。
- 勿来酒井の復興公営住宅に4LDKの住居はあるのか。核家族化の防止のためには4LDKの住居が必要だ。
- 多世代で住むことができ、祖父と孫が普段から交流することが、双葉町の継承につながる。
- 「素晴らしい町外拠点だ」と他市町村から羨まれるものを作ってほしい。
- 仮設住宅がなくなることは、町外拠点への転居の話と関連する。いつなのかははっきりしてほしい。
- 部会員はせっかく避難先から集まるので、部会での議論を実りあるものにするために事前に資料を送ってほしい。報告書や資料は部会の1週間前にほしい。よりよい案が出せるのではないか。
- 月2回「さくら」の仮設住宅で集まっているが、なくなる予定である。サロンを作ってほしい。富岡のサロンがあるが、双葉町で集まることができないときには、富岡や浪江で集まることができるとよい。

《福島市内に双葉町のサロンを作ってほしい》

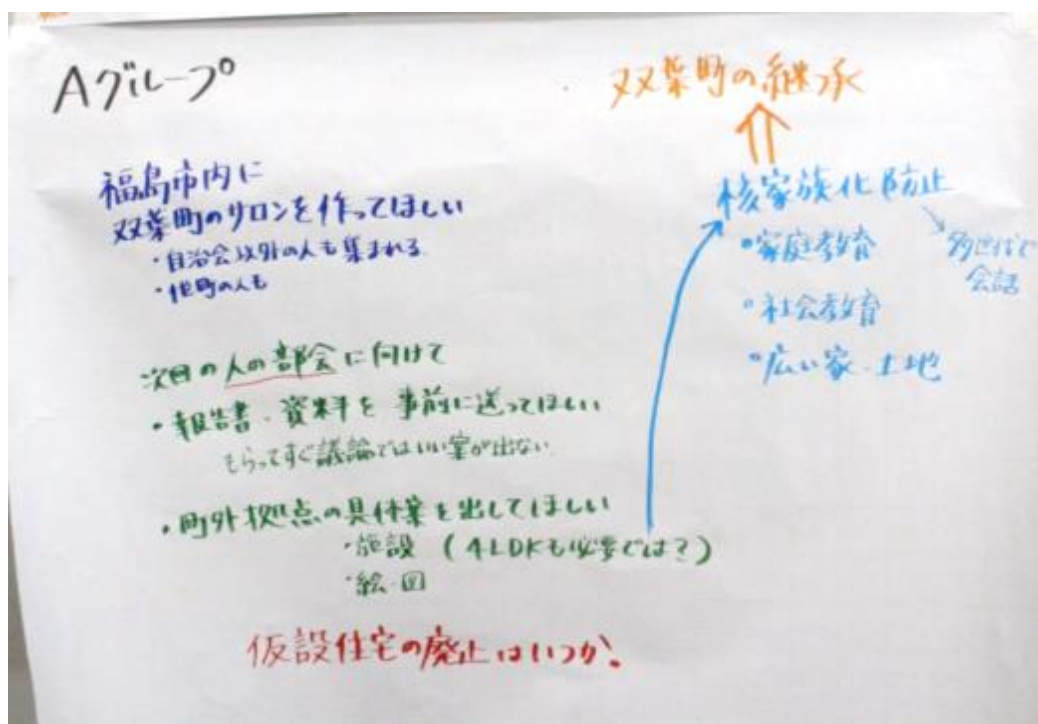
- 自治会以外の人にも集まれる
- 他町のひとも

《次回の部会に向けて》

- 報告書・資料を事前に送ってほしい
- もらってすぐ議論ではいい案が出ない

《町外拠点の具体案を出してほしい》

- 4LDKも必要ではないか
- 広い家と土地で核家族化を防止する
- 多世代で会話、家庭教育、社会教育の面でよい
- 双葉町の継承になる
- 絵と図がほしい



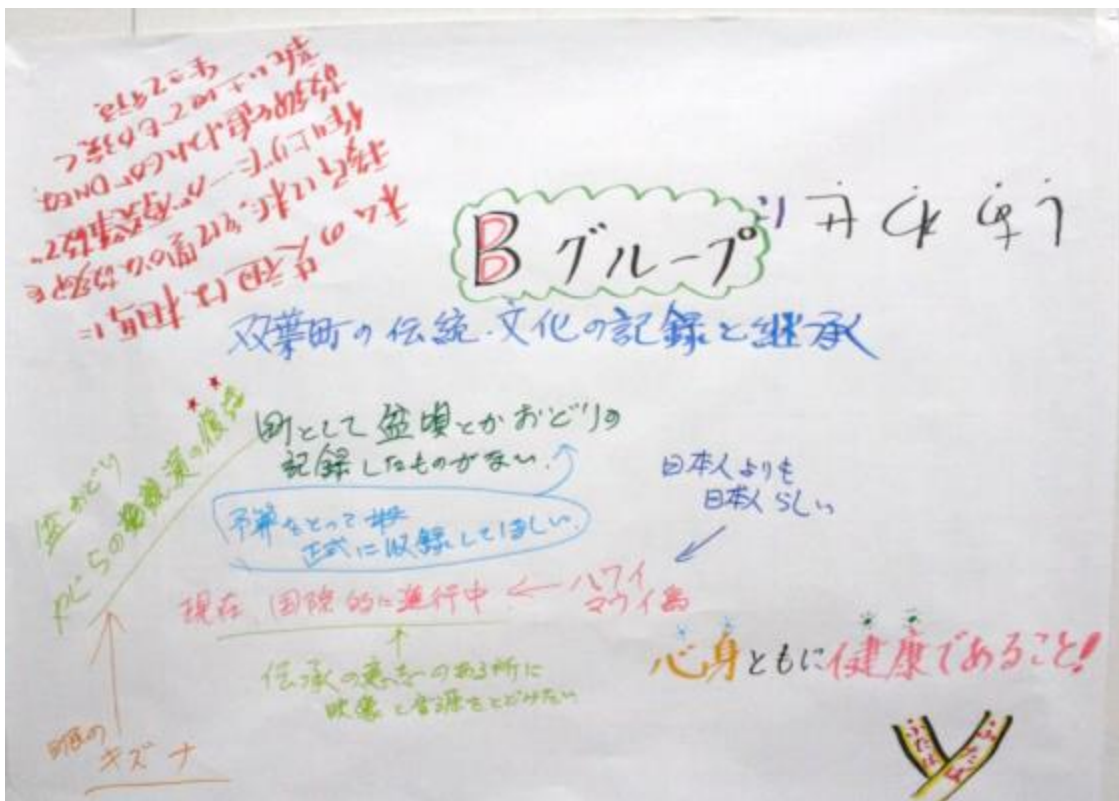
◇テーブルB

《自由討議の要点》

- 双葉町の伝統文化が頭から離れない。伝統文化の継承については、おととしからハワイのマウイ島とつながりができて、現地で双葉の盆踊りを行った。音源が必要だったが、役場には踊りの動画も音源もないという。唄や笛・太鼓を、自分たちで収録してマウイへ送った。ハワイでそれをもとに練習しているらしい。双葉町の伝統文化の伝承ができる。ドキュメンタリー映画もその様子を追っている。
- 盆踊りで櫓での競演を復活したらどうか。競演として練習することで集まることもできる。復興拠点で競演するのもよい。競演できる環境も作ることができる。
- 心身ともに健康であることが必要だ。健康であれば、双葉町の伝承もできるし、伝統文化の記録と継承については、大人が会を開き、将来のことを考えていることをきちんと発信することで、子どもにも伝わる。子どもたちの力を信じることにつきる。
- 健康であることは人間みんなの望みだ。加須で短冊を見たが、ほとんどが幸せ、いつまでも健康でいたいということだった。家族とともに、心身健康で幸せに暮らしたいということだろう。
- 双葉町の先祖の多くは北陸から来た。天明天保の飢饉の際に、相馬藩が移民政策をとり、かなりの人たちが双葉に入り、豊饒な土地を作り上げた。原発事故によって故郷を追われたが、先祖は新しい土地で力強く生き抜いてきた。これからも新しい土地で生き抜いていける。

《双葉町の伝統・文化の記録と継承》

- 盆踊り・櫓の競演の復活。町のきずな
- 町として盆唄とか踊りを記録したものが無い
- 予算をとって正式に収録してほしい
- 現在、ハワイのマウイ島で国際的に進行中
- 伝承の意思のある場所に映像と音源を届けたい
- 心身共に健康であること
- 私の先祖は相馬に移民してきた。そして豊かな故郷を作り上げた。原発事故で故郷を追われたが、どんな新しい土地でも力強く生きて行く



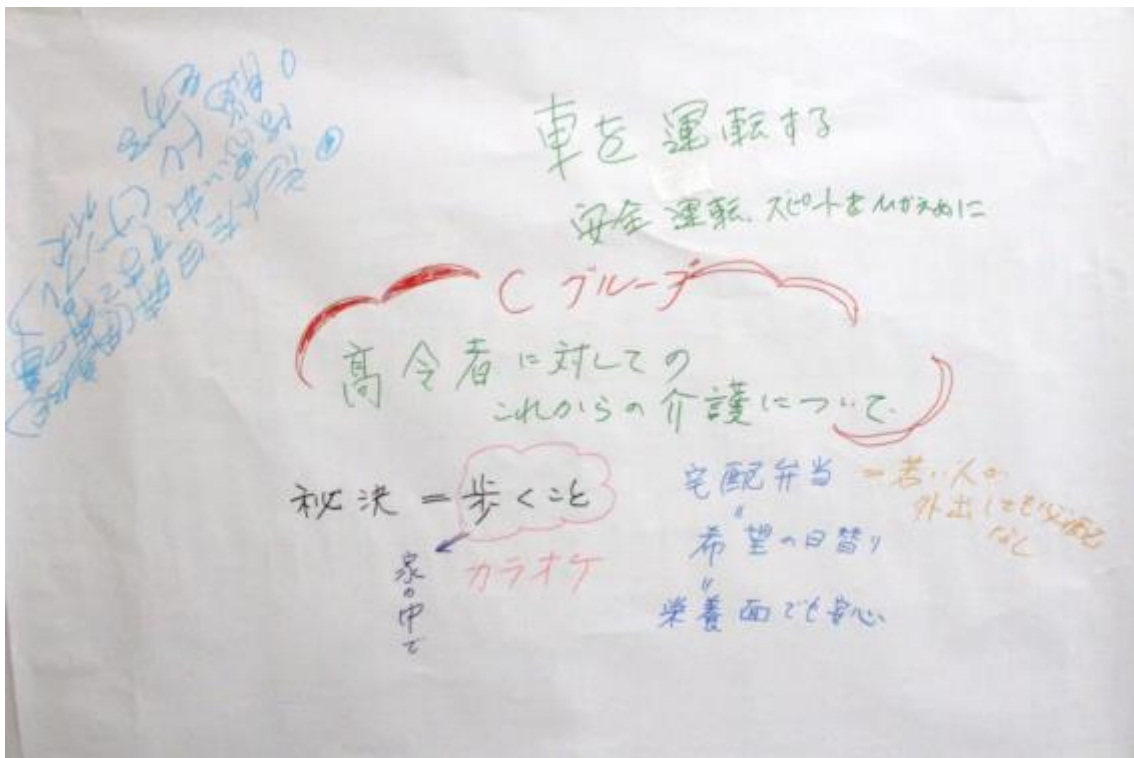
◇テーブルC

《自由討議の要点》

- 健康維持のためには、運動が必要だ。震災前にはトラクターを運転していたが、震災後は家にこもりっきりである。
- 健康でいるのには、介護を必要としないように、歩くことだ。声を出すこともよい。
- お昼の弁当（配食）があればよい。自身が料理を作っているが偏りがある。
- 親の介護が必要となる前に自分を守ることが必要だ。昼の食事や夕食なども必要になる。双葉町では配食があった。宅配をしている業者もいるので、利用できるとよい。
- 必要に迫られて高齢でも運転している。頭の体操については、クイズの本を買ってきて家でやっている。

《高齢者に対するのこれからの介護について》

- 秘訣＝歩くこと（家の中で）、そしてカラオケ
- 宅配弁当（若い人が外出しても必要なし）＝希望の日替わり＝栄養面でも安心
- 車を運転する（安全運転、スピードを控えめに）
- 忘れた日時や用事は思い出すまで待つこと
- 脳トレ（ナンプレクイズ）をする



■ファシリテーター金子先生によるまとめ

- すでに自立した人もいるので、今後は困っている人に合ったきめ細かい支援が必要だ。
- 復興公営住宅で核家族化が加速されるのではないかという懸念がある。都会と双葉町ではライフスタイルが異なる。双葉町のライフスタイルに合った住まい方が必要だ。
- 拠点においてのイベント、次世代育成の祭りのように、これから文化・伝統が重要である。文化・芸能をしっかりと作ることで若者育成もできるし、世界にも情報発信できる。
- 文化は、多世代の縦のきずなが必要になってくる。祭りは技術を持つ高齢者と、学ぶ意欲のある若者が協働で作る点が良い。
- 健康と介護の問題は重要だ。運動や家庭菜園が震災前のようにはできなくなっていることが問題だ。

■復興局 池田様のコメント

- 双葉町の復興については、町とやりとりをしているが、本日は生の声・具体的な声を聴けてよかった。まちづくりの計画もブラッシュアップすると思うが、国も支援したい。

■福島県 避難復興課 後藤様のコメント

- 町外復興拠点の勿来酒井については、予定よりも遅れているが、来年度中には完成し、入居を開始する。
- 復興公営住宅での4LDKの住居については、県内では3LDKと2LDKの住居を整備しているので、希望には添いかねる。
- 勿来酒井復興公営住宅については、高齢者介護施設、集会所、店舗も作る予定だ。イベントができる復興拠点ができるので他市町村が羨むものになるだろう。
- 町外拠点の絵・図については、わかりやすいものを作るように関係部署に申し伝えたい。

以上

